

2021年2月27日(土) 14:00-16:00

2020年度東アジア社会科教育シンポジウム
(第2部) 広島大学教育ヴィジョン研究センター
研究拠点創成フォーラム



他者の語りに開かれた 社会科教員養成のデザインリサーチ
— 一国の言説を乗り越える相互理解を目指して —

日韓の社会科教員志望学生による
「より良いヒロシマ教科書づくりプロジェクト」
(広島大学 金鍾成)
キム・ジョンスン



指定討論者
藤原 孝章
(同志社女子大学)

研究の評価、意義

① ナショナルヒストリー

集合的記憶装置としての歴史教育（歴史教科書）

ナショナリズムに基づいた歴史認識→対立

対立を言うことはたやすいが、ナショナリズムを超えて、どういう対話が可能か、どういう共有をするのか、を探った事例は少ない

② 「より良いヒロシマ教科書づくり」プロジェクト

それぞれの語り、真正な対話

国家を超える公共圏の創造へのチャレンジ

ポストモダン、ポストコロニアルの対話の試みとして評価できる

異なる語りの象徴としてのヒロシマ

	過去	⇒ ヒロシマ	⇒ 現在
日本の教科書	・戦争の過程 (原爆投下とその 前の歴史との分断)	・終戦 ・被害	・現在進行形 ・平和 ・復興 ・核廃絶 ・継承
韓国の教科書	・日本による植民地 支配	・光復(独立)	・ヒロシマの不在

問題提起



論点 → 特に、1A 1B 2A 2B

①内容「ヒロシマとはなんであったか」

1A 教科書の歴史認識に基づいた対話
なぜ、教科書の語りが異なるのか

「理解」の不可能性を、どう克服するか

1B 教科書の歴史認識（ナショナリズム）を離れて、市民として、戦争、平和、植民地、人権について、どう議論するか

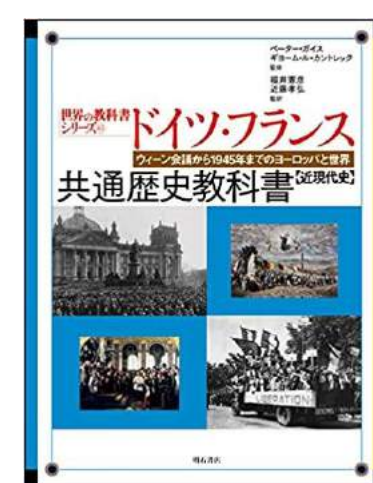
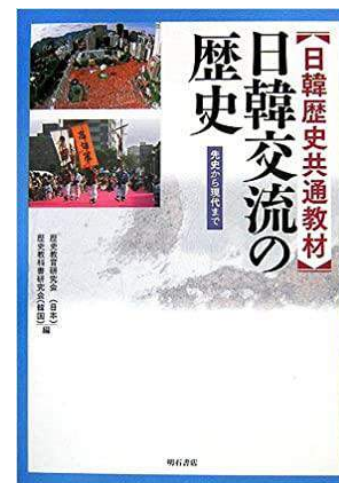
②方法

2A より良い教科書づくりは、これまでの
共通歴史教科書づくりや共通歴史教材
づくりの試みとどう違うのか

2B 自国史(現代史)の相対化、批判的歴史
(自国史の反省)はしなくていいのか

③対話は歴史対話のみか

3A 公共の創出は、歴史対話のみで可能か
例：異己理解、多文化共生、交流・変容



歴史教育研究会・歴史教科書研究会編（2007）『日韓歴史共通教材 日韓交流の歴史』明石書店

ペーター・ガイス、ギョーム・ル・カントレック著、福井憲彦、近藤孝弘訳（2016）『ドイツ・フランス共通歴史教科書【近現代史】』明石書店

矢口祐人・中山京子・森茂岳雄編（2011）『真珠湾を語る一歴史・記憶・教育』東京大学出版会



韓洪九著、高橋宗司監訳
（2003）『韓洪九の韓国現代史
—韓国とはどういう国か』平凡社
（『大韓民国史』）

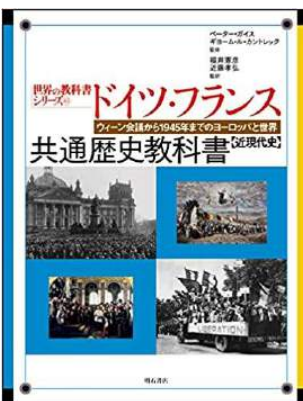
韓洪九著、高橋宗司監訳
（2005）『韓洪九の韓国現代史
〈2〉負の歴史から何を学ぶのか』平凡社（『大韓民国史2』）



歴史教育研究会・歴史教科書研究会編（2007）『日韓歴史共通教材 日韓交流の歴史』明石書店

- ・日韓の歴史研究者、学校教員による、高校生・若者のための日韓共通の歴史教材の作成。
- ・1997年末から2005年初めまで15回のシンポジウムを重ねる。

特色 ①日韓の共通の歴史認識を探る。②それを教材として示した。③先史から現代までの全時代を対象とした。④日韓交流しの通史的叙述



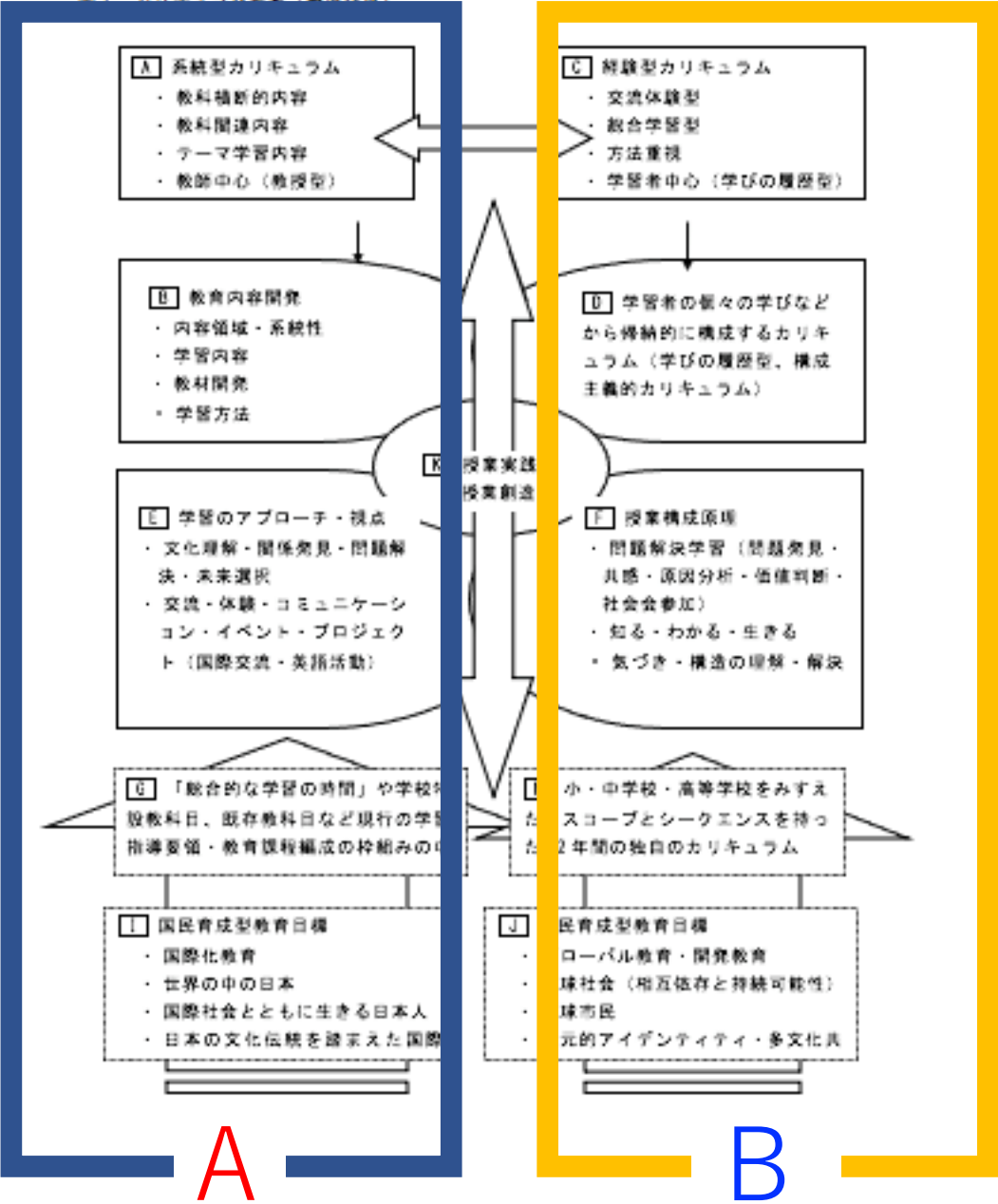
ペーター・ガイス、ギヨーム・ル・カントレック著、福井憲彦、近藤孝弘訳（2016）『ドイツ・フランス共通歴史教科書【近現代史】』明石書店（現代史版もある）

- ・第一次世界大戦、第二次世界大戦を国境での領土争奪を含めて戦った両国の共通の歴史的トピックを探る。
- ・EU（ヨーロッパ連合）の理念の実現のための高等教育の普遍性、歴史教科書づくりへの挑戦
- ・近現代史において、歴史をナショナリズムの観点から捉えることの是非などの課題



矢口祐人・中山京子・森茂岳雄編（2011）『真珠湾を語る－歴史・記憶・教育』東京大学出版会

- ・真珠湾をテーマにした日米教員ワークショップ「真珠湾－歴史・記憶・記念」、ホノルルで2005年から2010年の5年間のプロジェクト。
- ・日米の教員が参加し、研究者の講演、フィールドワーク、体験者兵士の話、教員相互の対話など。
- ・パールハーバーからヒロシマまで、教科書記述の異なる日米の学校教員にとって貴重な経験となる



研究の方法の可能性

A

B



国民育成
ナショナル

対置
対立
分断

市民育成
オルタナティブ

A

B



批判・相対化：「いくつもの日本」の歴史像

A



B

新たな空間・公共

- ①より良い教科書、共通歴史書づくり
- ②道徳的価値：異己理解
- ③文化的アイデンティティ：ひょうたん島
- ④交流と変容：海外研修・スタディツアー
- ⑤エンタテインメント・サブカルチャー

方法としての対話、真正な対話

ナショナル・ヒストリーの相対化
批判的歴史探究
「いくつもの日本」の歴史像

I 9C 蝦夷

II 11C 奥州藤原氏

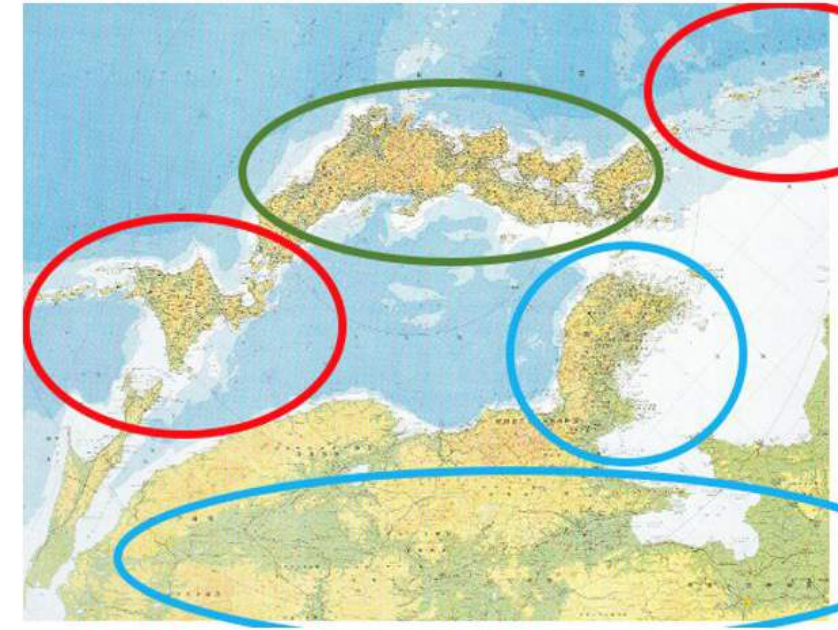
III 13-16c 中世アイヌ

IV 17-19c 近世アイヌ

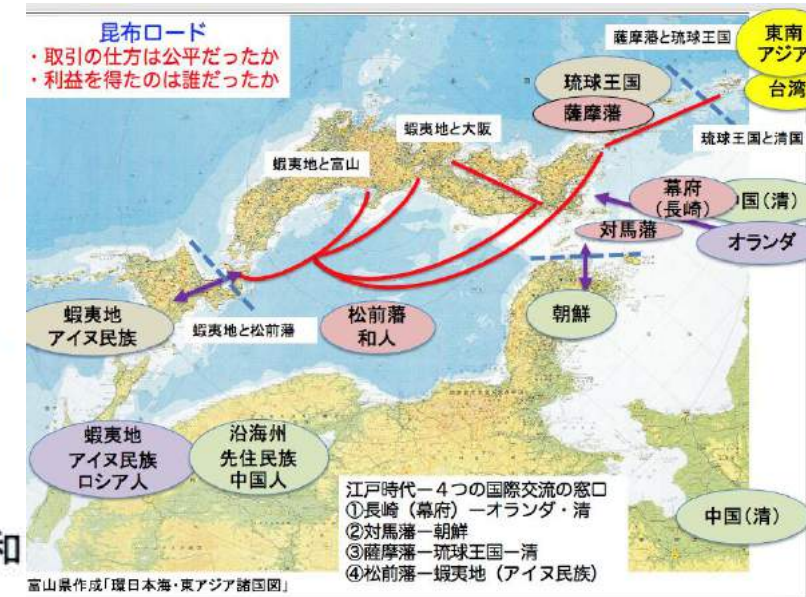
V 19-20c 北海道編入

VI 21c ポストコロニアル
先住民族

	蝦夷地・北海道	本土、ヤマト、日本	朝鮮	中国	琉球・沖縄	
10000	縄文	縄文			縄文	
500BC	続縄文	弥生		殷周・春秋	貝塚	1600BC
300	オホーツク 擦文	古墳		戦国 秦漢 隋唐		200
600		飛鳥 奈良 平安	三韓 三国 新羅			600
			高麗	宋 (北宋)	グスク	1000
1200	アイヌ	鎌倉		(南宋)		
		南北朝 室町	朝鮮(李朝)	元明	琉球王国 (古琉球)	1300
1600	蝦夷地	戦国 安土桃山 江戸		清	琉球王国(近 世琉球)	1600
1900	北海道	明治		中華民国		1900
		大正 昭和	大韓 日本の植民地	中華人民 共和国		
2000		平成 令和				1950 2000



東アジアの地域圏（藤原作成）
（地図：富山県作成「環日本海・東アジア諸国図（富山中心正距方位図）」）



昆布ロード概念図

【資料】チョコレートの話

みんなで遠足に行きました。

お昼のことです。お弁当を食べ終わって、みんなでおやつを食べることにしました。

みんな、自分で持ってきたおやつを出して食べ始めました。

かける（みき）は、持ってきたチョコレートを出して、食べようと思いましたが、トイレに行きたくなり、トイレに行きました。

しばらくして、もどってきたら、出しておいたはずのチョコレートが全部なくなっていました。

かける（みき）は、持ってきたチョコレートを出して、食べようと思いましたが、トイレは、持ってきたチョコレートを出して、食べようと思いましたが、トイレは、近くにいた親友のたけし（りさ）に「ぼく（わたし）のチョコレート知らない？」と聞いてみました。

するとたけし（りさ）が「ぼくもチョコレートが大好きだったから、食べちゃったよ。」と言いました。

【設問】

〇たけしさんの行動について、あなたはどのように思いますか。

また、それはなぜですか。理由も書きましょう。

【選択肢】

A：全然気にしない。仲良しなので、お互いのものを区別する必要はない。

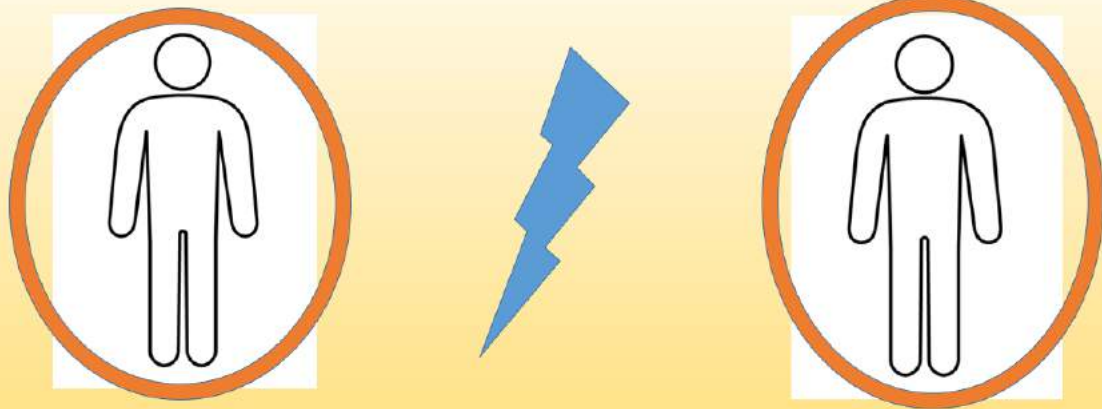
B：少し違和感はあるが、問題にしない。二人の関係に影響はない。

C：あまりいい気持ちでなはい。今度、またこのようなことがあったら困る。

D：不ゆかいだ。行動は理解できない。

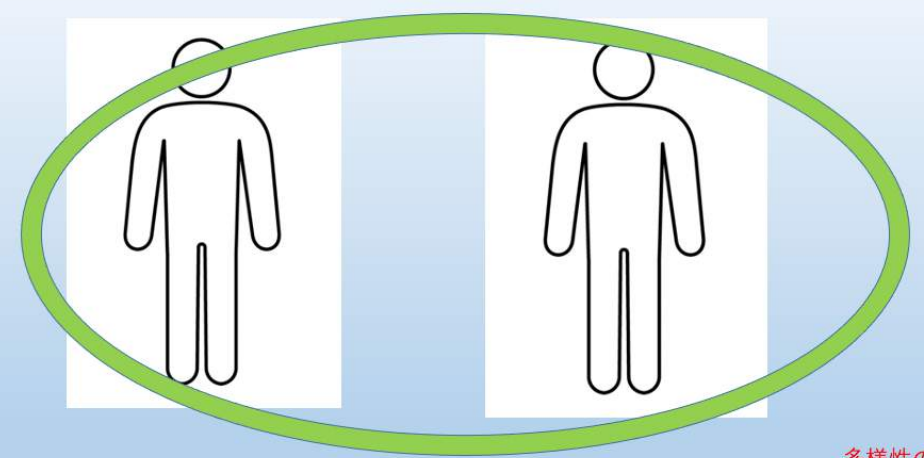
<理由>

授業場面 (1) きっかけは異文化理解



他者としての異己
 きっかけは、異文化理解、国際理解
 でも、中国は、、韓国は、日本は、、で終わらない、終われない
 (民族、国家の発見)

授業場面 (2) 身近なところに目を向けると



多様性の発見

教室の中の異己
 他者としての異己
 異文化理解から異なる他者への気づき

授業場面 (3) 自己の中の「異己」、共生を探る

個人の発見



授業場面 (4) 友だち、礼儀、分かち合い

新たな公共？



友情に線が引けるか？
 ルールや決まりは友情と対立するか？、
 多数、少数に関わりなく、分かち合いや公平なふるまいはできるか？

ひょうたん島問題（藤原2021）

パラダイス学校は認められるか

文化的アイデンティティの対立やジレンマ
多文化共生をどう図っていくか

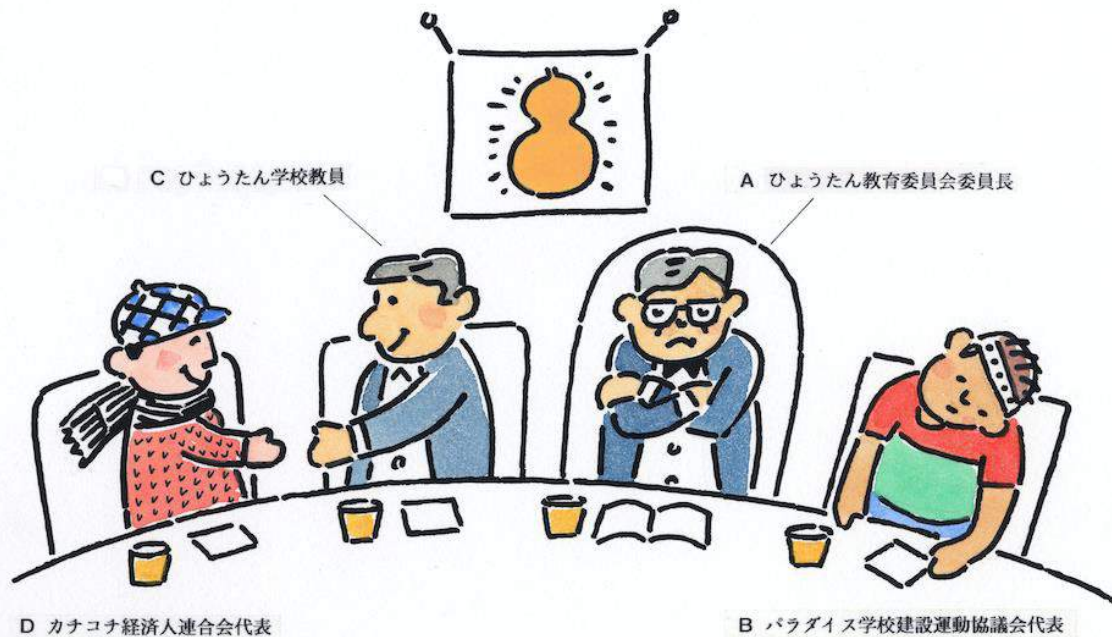
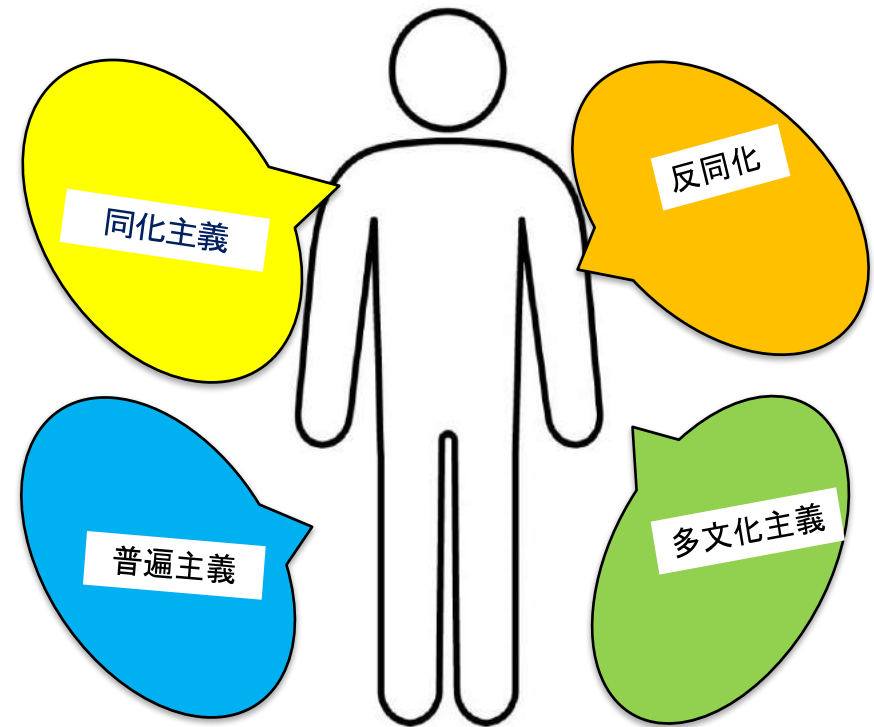


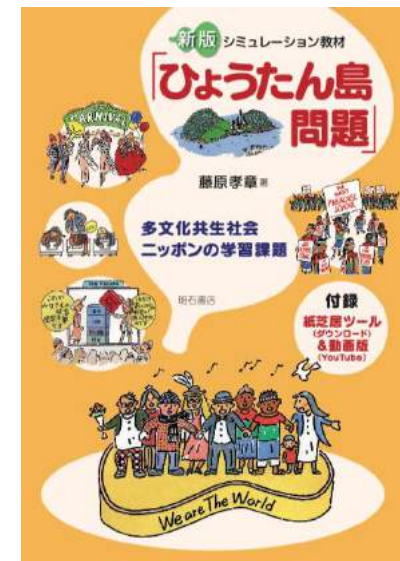
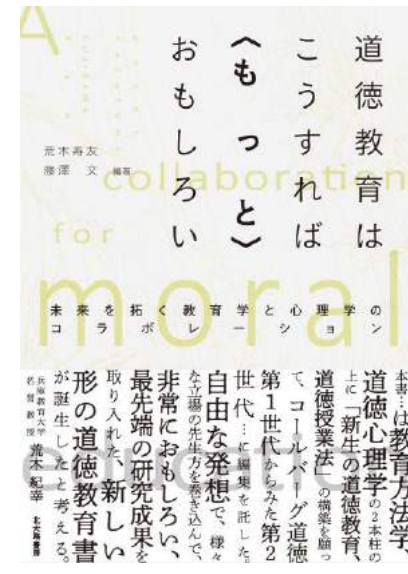
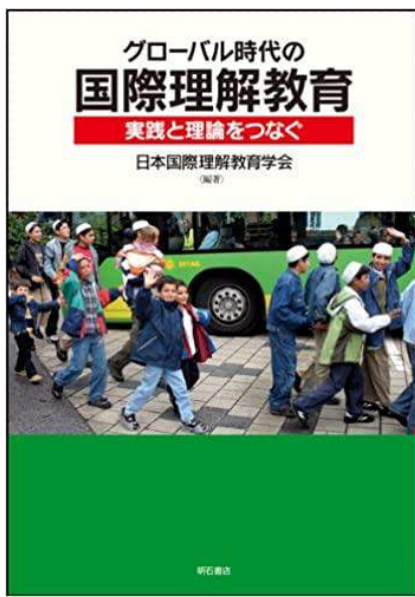
図1 複文化・多文化のアイデンティティ



新たな公共：多文化共生の議論の空間、共生モデル

参考文献

- ・ 藤原孝章（2010）「教師のカリキュラムデザイン力」日本国際理解教育学会編『グローバル時代の国際理解教育』明石書店、40-45頁
- ・ 藤原孝章ほか（2014）「特集 海外研修・スタディツアーと国際理解教育」日本国際理解教育学会『国際理解教育』Vol.20, 35－74頁
- ・ 子島進・藤原孝章編（2017）『大学における海外体験学習への挑戦』ナカニシヤ出版
- ・ 藤原孝章「多文化共生」荒木寿友,・藤澤文編（2019）『道德教育はこうすれば<もっと>おもしろい』北大路書房、60-69頁
- ・ 科研費（基盤（B））釜田聡研究代表（2017－2020年度）「日・中・韓三カ国協働による「異己」理解共生を目ざした国際理解教育のプログラム開発」
- ・ 藤原孝章（2021）『新版 ひょうたん島問題ー多文化共生社会日本の学習課題』明石書店
- ・ 藤原孝章（2021）「『いくつもの日本』の歴史像をさぐるー歴史探究のための教材研究覚書ー」同志社大学社会学部教育文化研究室『教育文化』30号、47－77頁



ありがとうございました

Thank you

謝謝（シェシェ）

감사합니다（カムサハムニダ）

ขอบคุณครับ（コップンカップ）

Salamat（サラマツト）

Gracias（グラシアス）

Obrigado（オブリガード）

Merci（メルシー）

Danke（ダンケ）

TUSEN TACK（ツーセン・タック）

